

- 問1 新潟県長岡市のように、12月や1月といった冬の時期に降水（降雪）量が突出して多くなる「日本海側の気候」において、冬に多くの降水をもたらす主な要因は何ですか。（2025年 埼玉県公立入試 類似）
1. 夏に発生した台風が日本海側に停滞し、冬まで湿った空気を供給し続けるため。
 2. オホーツク海高気圧から吹き出す冷たく湿った風が、直接吹き込むため。
 3. 北西の季節風が日本海を渡る際に水分を蓄え、山脈にぶつかって上昇するため。
 4. 南東の季節風が山脈を越える際にフーン現象を引き起こし、雲を発生させるため。
- 問2 日本の気候区分において、冬に北西から吹く季節風が日本海を渡る際に水分を蓄え、奥羽山脈などの山脈にぶつかって、日本海側に雪や雨の降水量が多くなる仕組みを説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2024年 福井県公立入試 類似）
1. ユーラシア大陸からの冷たく乾いた空気が、日本海の上空で湿気を得て、上昇気流となって山脈の斜面で雪を降らせる。
 2. 太平洋からの湿った空気が日本海に流れ込み、山脈を越える際に急激に冷却されることで大量の雪を降らせる。
 3. 赤道付近からの暖かくて湿った季節風が、冬に勢力を強めて日本海を北上し、山脈に遮られることで積雪をもたらす。
 4. オホーツク海からの冷たく湿った北東の風が、直接日本海側の地域に吹き込み、冬の間中、曇りや雨の日を多くする。
- 問3 東北地方の太平洋側では、夏にオホーツク海高気圧から「やませ」と呼ばれる冷たく湿った北東の風が吹き込むことがあります。例えば1993年の仙台市では、7月の平均気温が平年を大きく下回る20度未満となり、これに連動して水稻（米）の収穫量が極端に落ち込みました。このような、夏の低温や日照不足によって農作物の生育が阻害される気象災害を何といいますか。（2016年 鹿児島県公立入試 類似）
1. 冷害
 2. 干害
 3. 塩害
 4. 風水害
- 問4 最上川や木曽川といった日本の主要な河川を、アマゾン川やセーヌ川などの世界の河川と比較したとき、日本の河川の特徴として最も適切なものはどれですか。なお、比較の条件として、河口からの距離と標高の関係に着目するものとします。（2023年 愛媛県公立入試 類似）
1. 標高の高い山地が多いため、川の長さが非常に長く、勾配が急である
 2. 平野部が広大であるため、川の長さが長く、流れが非常に緩やかである
 3. 山地から海岸までの距離が短いため、川の長さが短く、勾配が急である
 4. 山地から海岸までの距離が短いため、川の長さが短く、流れが緩やかである
- 問5 日本アルプスの東側に位置し、本州を南北に縦断するように分布する「フォッサマグナ」の性質について述べた文として、最も適切なものを選びなさい。（2025年 千葉県公立入試 類似）
1. 海洋プレートが大陸プレートの下に沈み込むことで形成された、太平洋の海底に続く細長い溝状の地形である。
 2. 火山活動によって噴出された火山灰が厚く堆積してできた、関東地方に広がる赤土の層のことである。
 3. 本州を地質的に東西に分ける巨大な地溝帯であり、その境界を境に岩石や地層の重なり方が大きく異なっている。
 4. プレートどうしがぶつかり合う強い力によって押し曲げられてできた、日本を代表する険しい山脈の総称である。
- 問6 山梨県の甲府盆地などに見られる扇状地では、古くからブドウや桃などの果樹栽培が盛んに行われてきました。この地形において、稲作（水田）よりも果樹栽培が適している理由として、地質の面から説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2022年 高知県公立入試 類似）
1. 土砂に砂や小石が多く含まれており、水はけが非常に良いため。
 2. 地下水位が非常に高く、常に地表が湿った状態にあるため。
 3. 標高が高く冷涼な気候であり、稲の成長には適さないため。
 4. 川の最下流部に位置しており、泥や粘土が厚く堆積しているため。
- 問7 日本列島の地形的な特徴とその背景について述べた文として、最も適切なものを次のうちから選びなさい。（2018年 佐賀県公立入試 類似）
1. 古期造山帯に属しており、長期間の浸食を受けたなどらかな山地が列島の大部分を占めている。
 2. 環太平洋造山帯に位置しており、地殻変動が活発なため、火山が多く地震も頻繁に起こる。
 3. アルプス・ヒマラヤ造山帯の延長線上に位置するため、8000メートル級の高峰が連なっている。
 4. 大陸の安定陸塊の一部であるため、地震の発生は極めて稀であり、古い地層が露出している。
- 問8 日本周辺を宇宙から観測し、気象状況を把握するために用いられる「気象衛星画像」に関する説明として、最も適切なものはどれですか。（2022年 島根県公立入試 類似）
1. 高度ごとの風向や風速を測定し、日本上空を流れる偏西風の影響を分析する。
 2. 地上の気温が等しい地点を線で結ぶことで、季節ごとの気温の分布や推移を把握する。
 3. 地上の各地点で観測された気圧が等しい地点を線で結び、高気圧や低気圧の分布を捉える。
 4. 人工衛星から撮影された雲の分布を捉えることで、気圧配置や天候の推移を把握する。
- 問9 日本の気候区分の一つである「瀬戸内の気候」において、香川県高松市のように年間降水量が1,150.1ミリ程度と少なく、年間を通じて温暖で晴天が多い理由として、地形的要因から説明したものとして最も適切なものはどれか。（2024年 神奈川県公立入試 類似）
1. 年間を通じて乾燥した小笠原気団の勢力下にあるため、雨雲が停滞しにくいから。
 2. 北側の中国山地と南側の四国山地によって、夏・冬それぞれの季節風が遮られるため。
 3. 寒流である親潮が近くを流れているため、上昇気流が発生しにくく雲が発達しないため。
 4. 冬に北西から吹く湿った季節風が、関門海峡を抜けて直接流れ込むのを防いでいるから。
- 問10 熊本県などの九州地方と、新潟県などの日本海側に位置する地域の冬（12月～2月）の気候を比較したとき、新潟県側で日照時間が著しく少なくなる理由として、地理的背景から説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2021年 熊本県公立入試 類似）
1. 山地を越えて吹き降りるフーン現象が発生しやすく、地表付近の気温が上がって雲が発達しやすいため
 2. 太平洋から吹き込む湿った季節風が、高い山々を越える際に水分を失い、乾燥した空気が流れ込むため
 3. シベリア高気圧から吹き出す北西の季節風が、日本海で水蒸気を蓄えて雪や雲をもたらすため
 4. 暖流である日本海流（黒潮）の影響を強く受け、冬の時期に海上で発達した低気圧が停滞しやすいため
- 問11 日本の国土面積は約38万平方キロメートルですが、その地形的特徴をまとめた統計において、山地と丘陵地が占める割合として最も適切なものはどれですか。（2023年 山形県公立入試 類似）
1. 約4分の3
 2. 約4分の1
 3. 約2分の1
 4. 約10分の9
- 問12 地形図の時系列比較において、河川の河口付近が直線的に埋め立てられ、海上に橋が建設されるといった変化が見られる場合、その背景にある目的や社会的な仕組みについて述べた文として最も適切なものはどれですか。（2021年 京都府公立入試 類似）
1. 河川から流入する土砂を効率よく田畑へ供給し、農業生産力を向上させるための大規模な土木事業として行うため
 2. 土地不足を解消して新たな都市機能を確保するとともに、交通インフラを整備して地域間の移動や物流の利便性を高めるため
 3. 過疎化対策として、あえて居住不可能な人工島を作り、観光資源としての景観維持のみを目的として整備するため
 4. 公的機関である消防署や警察署を海上に孤立させて配置することで、都市部に与える騒音被害を最小限に抑えるため

答え合わせ・解説

問1	答え 3 北西の季節風が日本海を渡る際に水分を蓄え、山脈にぶつかって上昇するため。	冬になるとシベリア高気圧から冷たく乾燥した北西の季節風が吹きます。この風が日本海を渡る際に、対馬暖流の影響で蒸発した水分を大量に蓄えます。水分を含んだ空気が日本列島中央の山脈にぶつかって上昇することで雲が発達し、日本海側に大雪や雨をもたらします。
問2	答え 1 ユーラシア大陸からの冷たく乾いた空気が、日本海の上空で湿気を得て、上昇気流となって山脈の斜面で雪を降らせる。	冬になるとユーラシア大陸から冷たく乾いた北西の季節風が吹き出します。この風が日本海を通過する際、対馬海流などの影響で蒸発した水分を大量に含み、湿った空気へと変化します。この空気が奥羽山脈などの高い山々にぶつかって上昇することで、雲が発達し、日本海側に世界でも有数の豪雪をもたらします。一方、山を越えた後の風は乾燥し、太平洋側では晴天の日が多くなります。
問3	答え 1 冷害	夏にオホーツク海高気圧が勢力を強めると、冷涼な北東の風である「やませ」が東北地方の太平洋側に吹き込みます。これにより、夏の気温が上がらない「夏の低温」や日照不足が引き起こされ、稲などの農作物が十分に育たなくなる冷害が発生します。1993年の記録的な大減収は、中学地理においても重要な事例として扱われます。
問4	答え 3 山地から海岸までの距離が短いため、川の長さが短く、勾配が急である	日本の国土は約4分の3が山地であり、中央部に険しい山脈が連なっています。山地から海岸までの距離が短いため、そこを流れる河川は大陸の河川に比べて長さが短くなり、標高の高い場所から一気に海へと流れ落ちるため、勾配（傾斜）が非常に急になるという特徴があります。
問5	答え 3 本州を地質的に東西に分ける巨大な地溝帯であり、その境界を境に岩石や地層の重なり方が大きく異なっている。	フォッサマグナは、地形上の単なる「谷」ではなく、地下深くまで続く地質的な境界線（地溝帯）です。この「大きな溝」を境にして、東側と西側では地層の年代や岩石の種類が明確に異なっており、日本列島の成り立ちを示す重要な地理的特徴となっています。選択肢にある「海底の溝」はトラフや海溝、「赤土の層」は関東ロームの説明です。
問6	答え 1 土砂に砂や小石が多く含まれており、水はけが非常に良いため。	扇状地は山から運ばれた砂や小石で構成されているため、水分が地中に抜けやすく、水田のように水を溜めるのには不向きな土地です。一方で、果樹は過湿を嫌うものが多く、水はけの良い土地を好むため、扇状地の傾斜地はブドウや桃などの栽培に最適な環境となっています。
問7	答え 2 環太平洋造山帯に位置しており、地殻変動が活発なため、火山が多く地震も頻繁に起こる。	日本の地形を理解する上で、環太平洋造山帯という位置関係は重要です。この造山帯は地球上のプレートが沈み込む場所などに形成されるため、地下のマグマが発生しやすく火山が形作られるほか、プレートのひずみが解放される際に大規模な地震が発生します。これに対し、安定陸塊は地震がほとんどなく、アルプス・ヒマラヤ造山帯はアジアからヨーロッパにかけて横断する別の造山帯です。
問8	答え 4 人工衛星から撮影された雲の分布を捉えることで、気圧配置や天候の推移を把握する。	気象衛星は宇宙から地球を撮影し、雲の広がりや動きを画像として捉えます。この雲の分布を分析することで、台風の現在地や前線の位置、低気圧の発達状況などを視覚的に把握し、今後の天気の変化を予測するために役立てられています。等圧線を用いた天気図とは、情報の得方が異なります。
問9	答え 2 北側の中国山地と南側の四国山地によって、夏・冬それぞれの季節風が遮られるため。	瀬戸内の気候が乾燥する主な理由は、北を中国山地、南を四国山地という高い山々に囲まれている点にあります。夏は南東からの湿った季節風が四国山地に遮られ、冬は北西からの湿った季節風が中国山地に遮られるため、湿った空気が瀬戸内海沿岸に届きにくくなり、年間を通じて降水量が少なくなります。
問10	答え 3 シベリア高気圧から吹き出す北西の季節風が、日本海で水蒸気を蓄えて雪や雲をもたらすため	日本の冬の気候は、大陸から吹き出す北西の季節風に強く影響されます。この季節風が日本海を渡る際に、海面から蒸発した水蒸気を多く含み、日本の山脈にぶつかることで日本海側に雪や雲をもたらします。そのため、新潟県などの日本海側の地域では、冬場も比較的晴天に恵まれる熊本県などと比較して、12月から2月にかけての日照時間が大幅に減少するという特徴があります。これは「日本海側の気候」の典型的な傾向です。
問11	答え 1 約4分の3	日本列島は環太平洋造山帯に位置しており、国土の大部分が標高の高い山々や火山で構成されています。そのため、山地と丘陵地を合わせると陸地全体の約75%、つまり4分の3に達します。この割合は他の国々と比べても高く、日本の地形を象徴する数値です。
問12	答え 2 土地不足を解消して新たな都市機能を確保するとともに、交通インフラを整備して地域間の移動や物流の利便性を高めるため	高度経済成長期以降の日本では、都市部への人口集中に対応するため、海面を埋め立てて新たな工業用地、商業用地、あるいは住宅地を造成してきました。これに合わせて橋を架けることで、交通のボトルネックを解消し、都市全体の機能を向上させることが図られました。これは、自然地形を人間の経済活動に適した形に改変する人工的なインフラ整備の典型的な例です。